

28年度玉名女子高等学校 学校評価 (細目)

28年度玉名女子高等学校 学校評価 (細目)				
評価区分	A：十分達成		B：概ね達成	C：要努力
評価項目	評価の観点	評価	反省と課題	
1 生徒の基礎学力の向上と多様な生徒に対する進路保障	基礎学力の定着への努力	A	職員の意識は高いが、生徒の現状としては、定着不十分。今後も継続して努力が必要。自学・自習の習慣化を図る。	
	義務教育課程の復習教材マナトレの効果的活用	B	進路指導部の成績分析によれば、効果があっているように思える。低学力層のマナトレ確認テストの復習にさらに力を入れなければならない。	
	専門教科の学習内容の充実	A	学科で計画し成果を得ている。生徒の実態に則したカリキュラムの検討や、新しいコースの検討など、新しい取り組みにも力を入れていきたい。	
	進路指導の熱心な取り組み	A	多様な生徒のニーズに合わせた進路指導ができた。担任だけでなく、チームとして進路指導の取り組みができるように共通理解と指導の統一化が必要。新学習指導要領や、新テストに向けても情報をしっかり収集し、生徒が困らないよう職員が準備を徹底していく。	
	進路指導の年間計画の推進	B	主体性を持った進路指導が必要。早期取り組みができるように、入学直後からの計画的な指導を考える必要がある。効果的な進路相談を行い課外授業の工夫を進める。	
	授業環境作りへの努力	A	生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、教材の厳選や指導資料の作成に力を入れた。教室ICT機器の配備や照明のLED化等、少し改善された。さらに進めたいところである。	
	進路指導室の利用と情報収集	B	生徒が利用しやすい進路指導室になるよう提案をしながら移動工事を終えた。明るい進路指導室になったと思われる。情報検索のためのパソコンや資料を、隣接する図書室にも配置した。生徒の意見に耳を傾け、改善点を見出していく。	
	資格・検定への取り組み	A	生徒が積極的に取り組むよう指導ができた。全体としての合格率は高くはないが、進路に結びつく結果となるよう意欲的な取り組みを進めなければならない。	
2 基本的な生活習慣の確立と安全な生活指導	健康で安全な学校生活	A	毎日の健康観察指導を行った。健康意識の共有化をはかり大切な成長期である生徒の健康指導に当たりたい。校内の危険箇所等の把握にも努める。	
	基本的な生活習慣の定着	A	清潔でさわやかな高校生を育てる。活動と休養のバランスを図り、学習習慣を身につけ、学んだ知識や礼儀作法を日常生活で役立てさせる。	
	心の悩みへの取り組み	A	年間の行事の中に2回の教育相談を組み込み、有効に活用できた。生徒の変化に早期に気付き対応できた。今後も継続したい。	
	学校と家庭の連携	A	三者面談のみでなく、家庭との連絡を密にする努力ができた。各家庭と協力していくために、保護者が相談しやすい仕組みを考え、学校と家庭との情報交換の場、相談会等を検討する。	
	組織としての取り組み	A	学校保健部として積極的な活動ができた。学年での特別支援会議の結果は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへとつながることができた。特別支援相談員の活用もできた。	
	生徒の満足度の認識	A	学校が楽しい、本校に入学してよかったと生徒から耳にする。せつかくのこの明るく楽しい印象を外に向けてしっかり発信するべきである。学校紹介パンフレットに学校評価を一部公表して魅力をアピールできた。	

3 魅力ある学校づくりと生徒募集	学校行事の検討	A	学校行事は昨年同様でも、充実感を感じる内容に変化するように生徒会が活発に活動している。4学科のそれぞれの行事で予定表はいっぱいであるが、精選も検討しながらこれからも玉名女子高校らしい行事の創作をしなければならない。
	学校の広報活動の適切さ	A	広報活動の再構築を検討し、文化祭的に中学生が楽しめるオープンスクールの実施を行った。活発な情報発信ができるよう広報手段や機会の検討を考えると必ずである。夜の説明会や地域での説明会の開催地を拡大した。今後も検討が必要。
	スクールバスの運営の適切性	A	生徒の利便性を考えて運行しているが、部活動参加後の2便目について部分的な運行実施をしている。今年度は2便目を一路線拡大を実施した。今後も運行方面・距離の拡大を検討していく。
4 教師指導力の向上	わかりやすい授業の工夫	A	魅力ある授業の充実を図るため、例年2回実施していた研究授業を教科ごとに行った。外部から講師を招聘し、研究授業や研究協議を行った。指導力向上研修は、国数英に加え、理社も実施した。成果を期待する。
	教育目標に則した教育活動	A	学校教育目標や重点目標を理解し、それぞれの指導方針を建てた。スクールアイデンティティーを具体化、共通理解し、よりよい生徒の育成に努めたい。
	ハラスメントに配慮した教育	A	毎年、スクールハラスメントに関して研修会を行っている（パワハラ、セクハラ等）。28年度は、外部からの講師に頼らず、ワークショップ形式の研修を活発に行えた。意識を継続することが望まれる。
5 文武両道を目指す、学習と部活動の両立	学習と部活動の両立の配慮	B	学校活動と部活動を両立させ、心身共にバランスのとれた人間の育成に努め、実績を上げた。できるだけ授業時間数の確保に努め、部活動生が成績を維持できるよう見守り指導に努めなければならない。
	部活動の推進と技術向上の取り組み	A	各部それぞれに活動の推進に努めた。部活動実績を活かした進路実現も奨励しながら進路保障に努める。文化部、運動部共に生徒たちはよく頑張り、指導者もよく努めた。
6 人権同和教育の推進といじめを許さない心の涵養	いじめのない環境づくり	A	教育相談の活用と組織作りで対応した。何かあれば、専門家への繋ぎも確立している。早期対応で生徒の心の安定を図った。
	読書習慣の活発化	B	複数の読書感想文コンクールへの積極的な参加・出品を行うとともに校内におけるコンクールを実施。読書活動を呼びかけた図書教育の推進をはかった。新しく図書室を移設し、明るく利用者の多い図書室に変身した。校外の方の会議や説明会等活用の検討を進める。新刊図書の魅力的な選択に努めた。
	ボランティア活動の実践	C	委員会により各種ボランティアへの派遣を推進した。実際にこれまでより活動はできていたのであるが、震災を経験して、もっと何かできたのではなかったかという反省に基づいた厳しい評価と捉える。生徒の活動の活発化が求められる。
	国際交流の推進と異文化理解	A	留学生の受入を推進し、異文化を理解するとともに国際感覚を高めた。生徒と留学生を積極的に交流させることができた。AFS留学生については、地震の関係で受け入れ地変更となった。韓国姉妹校との交流は20年となった。大切に交流を継続したい。